



問 一志地域の新道路整備の構想について問う

市町村合併以前から構想がある井関・田尻方面から小山へ抜ける新道路の整備について、都市マスタープランに反映できないか。当該道路の整備が実現すれば、緊急自動車の川合地区への到着時間を大幅に短縮することができるのと同時に、一志嬉野インターチェンジへの近接性から、物流性を上げ、特別高圧の送電線が走る一志地域に企業誘致の可能性をもたらすと考えるがどうか。

答 必要性や重要度などに係る十分な議論が必要だと考える

次期都市マスタープランの策定については、令和9年度の完成を予定しており、策定に係る進め方も含めて、各部局の連携を進めながら、市民をはじめ市議会、関係者等にしっかり議論していただけるよう準備を行っていききたい。

井関・田尻方面から小山までの道路については、現在はいずれの計画にも位置付けがない状況であるが、まずはその必要性や重要度あるいは優先順位などについて、地域や関係者との間で機運の醸成が図られた上で、担当部局と十分な議論がなされていくことが望ましいと考えている。

その他の質疑・質問

- 企業が直接償還する奨学金制度について
- 災害時における緊急車両通行のための高速道路の活用について
- 災害時に備えた携帯基地局の関係道路の支障樹木の事前伐採について
- 災害用ポータブル発電機の啓発や対象範囲の拡大について

▶
新道路が整備されれば一志地域の南北バイパスとなり、緊急自動車の到着時間が短縮される



問 「大門・丸之内 未来のまちづくり」のインフラ整備の計画は

都市計画部が中心となって進められている「大門・丸之内 未来のまちづくり」であるので、道路、上下水道、電柱、電線などのインフラ整備も全体のまちづくりの中で計画していくべきである。令和5年第1回定例会の答弁では「各部局において、個別の実施計画に基づき進める」とあったが、大門・丸之内地区のまちづくりの中で時期や内容を決めていくべきである。

答 適切なタイミングで施工できるよう関係部局と調整していく

大門・丸之内地区未来ビジョンに掲げる取り組みの一つである立町・大門大通りの道路整備を見据えたときに、これに先立って老朽化している水道管や下水道管の更新を進めていく必要がある。

令和5年11月から、大門地内で下水道管更生工事が始まっており、今後、未定ではあるが、開削を必要とするような下水道管や水道管の更新整備が行われる際も、手戻りなく適切なタイミングで施工できるように検討・調整を行うことが必要となってくるため、都市計画部が中心となって庁内の関係部局との調整を行っていききたい。

その他の質疑・質問

- 中心市街地活性化の社会・活用実験について
- シンポジウム「津城をたどる」開催について
- 津ボートのパーク化計画に地中熱の利活用を
- 各総合支所と学校施設へLED照明器具を
- お城公園における指定管理者制度導入について
- 市営住宅の施設と維持管理の状況について
- 宅配ボックス設置に助成制度の導入を など

▶
お城公園においても、今後、必要に応じて指定管理者制度の導入を

